

最近の道内産業経済動向

一部で弱い動きが続いているものの、総体では緩やかに持ち直している。先行きは、公的需要の減少持続や所得環境の改善遅れ等から、横這い圏内で推移するとみられる。

個人消費は全体では低調も一部に明るい動き

9月の大型小売店販売（既存店）は、52カ月連続前年割れ（前年比 0.7%）となったもののマイナス幅は縮小傾向。全店ベースではスーパーが6カ月連続のプラス。乗用車販売（9月）は、軽自動車が増勢を持続（同16.0%増）したが、普通車、小型車の低調から全体では5カ月連続で前年割れ（同 5.5%）。なお、10月は札幌市内百貨店を中心に“日ハム”優勝セール効果がみられた。

道内投資は設備投資が底堅い動き、公共投資は減少持続

住宅着工戸数（9月）は、持家（11カ月連続プラス）・貸家が前年を上回ったものの、分譲住宅が前年（大型マンション着工）の反動減となり、全体では前年比 6.7%と2カ月連続でマイナス（4-9月累計：同 0.9%）。民間設備投資は、道外需要向け製造業（能力増強）のほか、一部非製造業（競争力強化）でも前向きな動きがみられる。9月の民間建築物着工床面積（非居住用）は4カ月連続でプラス（同15.0%増）。公共工事請負額（9月）は5カ月連続前年割れ（4-9月累計：前年比 11.8%）となり、10月も前年を下回った模様。

製造業生産は緩やかな上昇基調

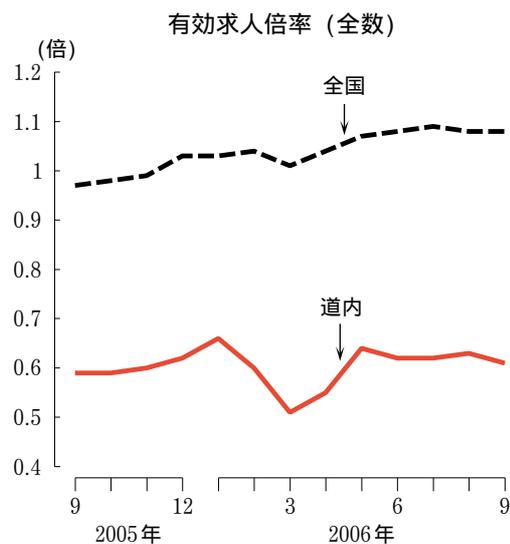
鉱工業生産指数（9月）は、前年比で7カ月連続上昇（0.9%）。金属製品、窯業・土石、石油製品などが低下したものの、電気機械（電子部品）、輸送機械（自動車部品）、鉄鋼（自動車向け特殊鋼棒鋼）等が道外需要増を背景に全体をけん引した。なお、前月比では2カ月連続で低下。

観光は来道者数が増加基調

9月の来道者数（除く海外からの直行便）は前年比1.4%増（6カ月連続でプラス。4-9月累計：同3.0%増）。東アジアを中心とする海外客（入国者ベース）も堅調持続。なお、旭山動物園では夏季開園期間（4/29～10/22）の入園者数が同期間としては過去最高を記録した。

雇用情勢は概ね横這い

9月の有効求人倍率（常用）は0.58倍（前年比+0.01ポイント）と、横這いの域ながら3カ月連続で前年を上回った。完全失業率（7-9月）は5.3%（前年比0.1ポイント悪化）。



（資料） 総務省、北海道労働局

主要経済指標でみる北海道経済

(1) 消費・観光関連

(前年比伸び率、%)

年度・四半期・月	04	05	05/10-12	06/1-3	4-6	7-9	8	9	4-9累計
大型小売店販売額・既存店	4.8	3.0	2.5	2.3	2.6	1.0	0.8	0.7	(全店) 0.7
乗用車販売(含む軽)	2.2	1.2	7.4	0.6	4.9	4.2	4.0	5.5	4.5
来道者数(除く海外からの直行便)	2.4	0.6	2.9	3.2	3.3	2.8	4.7	1.4	3.0
外国人入国者数	54.4	22.6	36.2	18.0	19.8	11.7	8.8	23.0	14.9

- ・大型小売店販売は既存店ベースでは前年比マイナスのまま推移。ただし、全店ベースでは百貨店がマイナス(9月:同7.9%、4-9累計で同5.5%)の半面、スーパーは4月以降プラスで推移(9月:同3.0%増、4-9累計で同1.8%増)している。
- ・来道者数(道観光連盟調べ)は、回復基調で推移しており、4-9月累計で同3.0%増。人気を集めた旭山動物園の夏季開園期間(4/29-10/22)の入園者数は231万人を記録、前年を37%上回った。

(2) 建設関連

(前年比伸び率、%)

年度・四半期・月	04	05	05/10-12	06/1-3	4-6	7-9	8	9	4-9累計
新設住宅着工戸数	5.1	10.2	32.0	10.3	1.7	0.2	14.2	6.7	0.9
うち持家	4.3	4.8	2.7	8.8	6.1	5.1	1.4	10.7	5.6
うち貸家	8.8	22.7	39.5	34.0	1.4	6.3	14.7	2.3	2.3
うち分譲	9.8	4.8	55.1	35.0	22.8	32.5	38.1	57.6	28.5
(うち分譲マンション)	11.3	12.7	76.2	47.2	34.4	46.0	51.3	73.3	41.7
札幌市住宅建築確認件数(戸数)	1.7	19.5	47.2	3.8	5.8	16.1	28.6	0.0	6.0
前払い保証工事請負額	7.0	4.7	15.2	10.5	14.4	8.6	2.4	14.4	11.8
民間建築物着工床面積・非居住用	13.8	20.0	26.3	2.9	13.3	30.2	30.2	15.0	21.3

- ・住宅着工戸数はやや弱含みで推移している。4-9月累計では前年比0.9%。持家(一戸建て注文住宅)着工は昨秋以降、前年を上回っており、7年ぶりの回復傾向。なお、着工戸数の先行指標となる住宅建築確認件数(札幌、戸数ベース)は7-9月累計で同16.1%と前年を下回っている。
- ・民間建築物(非居住用)着工床面積は4-9月累計で同21.3%増。製造業、電気・ガス、飲食店・宿泊等が高水準。

(3) 生産・輸出関連

(前年比伸び率、%)

年度・四半期・月	04	05	05/10-12	06/1-3	4-6	7-9	8	9	4-9累計
鉱工業生産指数	0.2	3.6	4.8	0.0	3.7	2.6	2.0	0.9	3.1
うち鉄鋼	3.5	1.9	0.2	2.0	5.3	3.9	2.5	1.0	4.6
うち電気機械	0.1	1.7	4.8	13.3	10.7	18.7	13.0	13.5	14.8
うち輸送機械	3.3	2.5	1.3	16.2	21.6	17.5	23.3	12.0	19.5
通関輸出(函館税関・道内分)	12.5	10.4	17.9	9.2	27.2	25.6	16.3	21.2	26.3

- ・製造業生産は道外需要向け中心の業種を中心に堅調に推移している。輸出も鉄鋼、化学製品、自動車部品などを中心に高い伸びを続けており、4-9月累計では、1,532億円(前年比26.3%増)。

(4) 倒産・雇用関連

(前年比伸び率、%・ポイント)

年度・四半期・月	04	05	05/10-12	06/1-3	4-6	7-9	8	9	4-9累計
倒産件数(東京商工リサーチ)	7.7	3.8	1.5	14.9	8.3	21.1	46.6	5.6	6.9
有効求人倍率(全数・倍)	0.55	0.58	0.60	0.59	0.60	0.62	0.63	0.61	0.61
有効求人倍率(常用・前年差)	+0.05	+0.03	0.0	+0.02	0.0	+0.02	+0.02	+0.01	+0.01

- ・倒産件数は減少基調で推移。雇用は緩やかに改善しているが、全国と比べると格差あり(9月の有効求人倍率・全数は全国1.08倍に対し道内は0.61倍。常用雇用指数、賃金指数は全国が前年比プラスだが、道内ではマイナス推移。7-9月の完全失業率は全国4.1%に対し道内は5.3%。前年比で全国が0.2ポイント改善、道内は0.1ポイント悪化)。

(資料) 各種公表資料、ヒアリングによる。

日ハム優勝で盛り上がる道内の消費

- ・9月中旬に、プロ野球パ・リーグ「北海道日本ハムファイターズ」のプレーオフ進出が決まって以降、リーグ1位通過、リーグ優勝、日本シリーズ優勝と道民の気持ちの昂りとともに、道内の消費も活気が見られるようになった。
- ・街頭の景況感を示す景気ウォッチャー調査（10月分、内閣府）の景気の現状判断DI（家計動向関連）でも、全国が0.1ポイント悪化だったのに対し、北海道は2.4ポイント上昇しており、道内の消費に「日ハム効果」が出ていることがわかる。
- ・業種別では、優勝セールを実施した小売店、試合観戦に直接関わる交通やホテルに、明確に「日ハム効果」が出ている。一方で、外食、レジャー施設などは試合開催日に自宅でテレビ観戦する人が多かった為、客数が減少、苦戦を強いられた模様だ。
- ・また、企業・団体が消費者と一体となって日ハムを応援することで、企業・団体自身のファンを増やすことができたとの声も聴かれ、「日ハム効果」には地域と企業・団体を結び付ける力も備わっている。
- ・消費を支える雇用環境は引き続き厳しく、10月の活況振りから、11月以降の反動減を心配する声も出ているが、15万人の人出が予想されている18日の優勝パレードを筆頭に、「日ハム効果」にはまだまだ続きがありそうだ。

1. 小売業の動向

- ・9月の大型小売店売上高（既存店ベース）は、前年比 0.7%（8月は同 0.8%）と若干の改善にとどまったが、10月は、百貨店・スーパー両方の優勝セールの盛り上がりから、02年5月以来の前年比プラスとなる可能性がでてきた。
- ・コンビニエンスストア、家電量販店など上記以外の業種を含め、道内小売大手だけでも20社以上が優勝セールを実施、小売業界全体として大いに盛り上がった。

表1. 小売業における「日ハム」効果

（ = プラスの効果、 = 効果は感じられなかった・わからない、 x = マイナスの効果）

業 種	効果	傾 向 ・ 特 徴
百貨店		<ul style="list-style-type: none"> ・10月は、全館をあげて幅広い商品で優勝セールを実施、客数で前年比5～10%、売上高でも同5%程度伸ばしたところが多い。 ・セール期間中については、客数、売上高ともに同20%～50%増となったところが多く、リーグ優勝時より、日本シリーズ優勝時の方が客数、売上げともに伸び率が高い傾向が見られた。 ・一部にセール待ちの買い控えがあったものの、気温の低下も優勝セールを後押しし、コート、ブーツ、マフラーといったシーズン主力の秋冬衣料を中心に、セール品だけでなく、定価の商品もよく売れ、消費者の購買意欲の上昇が感じられたとの声も聴かれた。
スーパー		<ul style="list-style-type: none"> ・優勝セールの打ち方（全店をあげてか、日ハム商品を中心にか等）によって、効果の強弱はあるものの、札幌以外も含め客数、売上げとも前年を上回ったところが多い。 ・「優勝セール」ではなく「感動をありがとうセール」のロゴを使用したことに、消費者の共感が多く寄せられたとの声もあった。
コンビニエンスストア		<ul style="list-style-type: none"> ・大手チェーン店の中には、優勝セールを実施したところもあり、道内全域で「日ハム効果」による底上げがあった。背番号にちなんだセール品の他、気温の低下から、おでんが好調であった。

家電量販店		・優勝セールの実施により、客数、売上高ともに前年同月より増加した模様。セール品の他、洗濯機、冷蔵庫、カメラ等でややグレードの高いものの売れ行きがよかったようだ。
商店街 ショッピングモール	}	・大型商業施設に付属したショッピングモールでは、主たるスーパーの客数増加の影響を受け、売上げを伸ばした。特に観戦スペースを設けたところでは、セールへの自然な流れを作り出せたとの声も聴かれた。 ・商店街については、イベントやセールを開催したところもあったが、広がりや効果は様々で、全体での判断は難しい。

効果は、各業態へのヒアリング等を基に当研究所が独自に判断したものの。

2. 小売業以外の動向

・小売店以外では、試合観戦に関わる業種かどうか、分かれ目になっており、ホテル、交通は恩恵を受けたが、外食店やレジャーに関わる業種では、試合開催日に自宅でテレビ観戦する人が多かった為、客数が減少、苦戦を強いられた模様だ。しかし、11月の日ハムイベントは街に人出をもたらすもので、これらの業種でも効果が期待できる。

表2. 小売業以外における「日ハム効果」

(= プラスの効果、 = 効果は感じられなかった・わからない、 x = マイナス)

業 態	効果	傾 向 ・ 特 徴
ホ テ ル		・札幌市内ホテルは10月全体でみて好調であった模様。試合開催日にレストランの客数が減少したものの、札幌市外から観戦にきた宿泊客が増加、日によっては満室となったところもあった。 ・今後日ハムに関連した催し物を企画しているホテルもあり、「日ハム効果」はこれからも続く見通し。
交 通		・地下鉄では、北海道日本ハムファイターズの試合開催日に東豊線の乗客数が大幅に増加、JRでは臨時特急ファイターズ号、地方都市からの観戦ツアーが人気を博した。 ・タクシーでも、札幌ドームでの試合数、観客の増加により、利用者が増加した模様。日ハムの札幌移転時から、業界をあげて日ハムファンを増やす活動を行ってきたことで、各タクシー会社のファンも増え、試合観戦の足に利用する人の割合も増えたのではないかとこの声もあった。
外 食 店	}	・日ハムの試合開催日には、自宅でテレビ観戦する人が多かった為客数が減少、優勝決定後の27～28日はやや回復がみられたが、10月全体では厳しい結果となった模様。一方、大型商業施設内の店舗では、主たるスーパーの客数増加の恩恵を受け、大きく売上げを伸ばした。
映 画 館	x	・大作の公開が少ない秋は閑散期にあたり、比較は難しいが日本シリーズ開催時には観客が減少した。

効果は、各業態へのヒアリング等を基に当研究所が独自に判断したものの。

3. 11月の「日ハム効果」が期待できるイベント (11月15日現在)

<ul style="list-style-type: none"> ・優勝パレード (11/18) 実行委員会では15万人の人出を予想しており、YOSAKOIソーラン祭り (06年の開催日1日当たりの観客動員数37万人)、さっぽろ雪祭り (同31万人) には及ばないものの、パレードの予算80百万円その他、パレードが行われる札幌駅前通りの周辺施設や交通機関を中心に幅広い業種で消費の拡大効果が期待できる。 ・ファンフェスティバル (11/19、札幌ドーム) ・道内各地での選手によるプロモーション (11/22～23) 札幌、旭川、函館、帯広、釧路、北見、稚内でトークショーやサイン会を実施。
--

(石田 琢磨)

“ 難民支援のノーベル賞 ” 「ナンセン難民賞」 を道内企業経営者が日本人として初受賞 ～ (株)富士メガネ・金井会長に聞く ～

23年間に渡り多くの難民に眼鏡を寄贈してきた(株)富士メガネ・金井会長が、“ 難民支援のノーベル賞 ” といわれる国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) の「ナンセン難民賞」を受賞、10月2日にジュネーブのUNHCR本部で行われた授与式に臨んだ。同賞の受賞は、日本人として個人、組織を通じて初めての快挙。1983年以降、タイ、ネパール、アルメニア、アゼルバイジャンを、「視援隊」と名づけた社内のボランティアチームで毎年訪問し、自ら多くの難民や国内避難民に視力検査を実施、それぞれの視力にあった新しい眼鏡を提供してきた実績が高く評価された結果だ。今回は、地道でユニークな社会貢献活動を長期に渡って継続し、“ 視力の改善 ” を通じ、“ 未来への希望 ” を多くの難民に提供してきた(株)富士メガネの取り組みについて、金井会長へのインタビュー形式で紹介する。

【ナンセン難民賞の基礎知識】

- ◇ 難民：人種、宗教、国籍、政治的意見などの理由で、自国にいと迫害を受けるか、その恐れがあるため、外国に逃れた（または逃れることを希望する）人々。国内避難民や帰還した難民等を含めた世界の難民数は約2,500万人に上る。
- ◇ ナンセン難民賞：1954年に創設。難民支援活動に多大な貢献をした個人や団体に毎年（1名または1団体）授与される。ノルウェーの北極探検家で国際連盟の初代難民高等弁務官として1920年代の難民支援に力を入れたフリチョフ・ナンセン氏にちなんで名づけられた。1979年からはメダルとともに、賞金10万ドルが授与（受賞者が選ぶ難民支援にあてられる）。高等弁務官を委員長とする委員会が推薦を基に選出する。主な受賞者は、エレノア・ルーズベルト元米国大統領夫人（1954年）、国境なき医師団（1993年）、コンサートの収益をカンボジア等世界の慈善団体に寄附してきたオペラ歌手・パヴァロッティ氏（2001年）、ソマリアで結核病院を運営していた医師（2003年）、“ ブルンジの天使 ” として知られるNGO指導者（2005年）など。
- ◇ 国連難民高等弁務官事務所：1951年に活動開始。人道的な立場から難民に保護を与え、帰国または第三国での定住を援助する。ジュネーブ（スイス）に本部を置く。1954年、81年にノーベル平和賞を受賞。1991年～2000年には緒方貞子氏が高等弁務官を務めた。
- ◇ 金井会長の受賞理由：長期にわたり、「難民に対して非常な尽力」を捧げ、視力改善という形で難民の苦境の軽減に取り組んできた。人道的にも金銭的にも多大かつ価値ある貢献をした（提供した眼鏡は新品約11万組に上る）。

（資料）UNHCRホームページなどを参照

（金井会長へのインタビュー）

難民支援を始めたきっかけは何ですか

社会貢献活動には従来から関心がありました。1981年には、難民支援のNGOから眼鏡援助の要請があることを知り、インドシナ難民に500組の眼鏡を送りました。その後、83年の創業45周年事業を検討する中で、送るだけではなく、現地を訪問して難民の視力検査を行い、それぞれに合った眼鏡を提供するプロジェクトを企画。社員4人でタイのインドシナ難民キャ

ンプを16日間の日程で訪ね、1,200組の眼鏡を寄贈してきました。翌年、この活動を高く評価してくれたタイのUNHCRから正式な要請を受け、UNHCRの組織的な支援の元、毎年実施するようになりました。タイでの活動終了後も、UNHCRからの要請で、ネパール、アルメニア、アゼルバイジャンに活動を広げ、今年で24回目の訪問となりました。難民が自立するには教育を受けることが不可欠ですが、視力が弱いと学習が困難になります。このため、視力にあった眼鏡の提供は、難民の第三国定住や職業従事などの自立支援につながると評価されています。

私は「オプトメトリスト」（視力補正、視機能に関する総合的なケアを行う専門職）の資格を得るために、大学（早大）卒業後、米国サン・カリフォルニア・カレッジ・オブ・オプトメトリーに留学しました。1972年にカリフォルニア州のライセンスを取得した後、アリゾナ州の北米先住民保護地区での視力検査ボランティア活動に参加し、現地の人々に大変喜ばれ感動しました。この体験が、“専門を生かした人道支援”への関心につながっていると思います。また、幼児の頃に敗戦で樺太から難民のように引揚げた体験を親から聞いて育ったことも、難民を支援したいという意識の背景にあるかも知れません。



授与式の模様



受賞メダル

現地ではどのような活動を行うのですか、また、ご苦労したことはありますか

現地のNGOや通訳の方々など大勢の協力も得て、1日1人当たり40～50人の視力検査を行います。眼鏡は予め4,000組程寄贈し、合うものをその場で手渡しますが、合わない場合は、後日、日本で作って現地に送っています。残った眼鏡や機材類の一部は現地のNGO等に利用してもらいます。眼鏡は好きなものを持って行ってという訳にはいきません。困難な作業ですが、現地で一人一人の視力検査をした上で差し上げることに意義があると思います。

最初の訪問では、空港に迎えてくれるはずだったNGO担当者の到着が遅れ、持参した眼鏡500組が税関で没収されたり、機材が届かない、移動が予定通りいかないなど、トラブルがたくさん発生しました。また、難民キャンプの生活環境は想像以上に苛酷で、気候の違いや不慣れな環境での作業など視援隊メンバーの疲労は大変なものでした。しかし、翌年からはUNHCRの組織的なサポート（寄贈眼鏡の通関、スケジュール管理、サービスを受ける難民の事前のリストアップ、移動、宿泊の手配等）を受けスムーズに活動できるようになりました。

幸いなことに事故や盗難、大きな病気とも無縁ですが、私を除き毎年顔ぶれが変わるメンバーの精神的、肉体的負担が大きいことには変わりありません。現地では、車や軽飛行機に乗り継ぎ1日で850kmも移動することもあります。タイのキャンプは、ひどい暑さの中、まともなトイレはなく、シャワーも雨水といった状況でした。リーダーとしては、10日から2週間の活動期間中、メンバーの安全確保や健康管理に細心の注意を払う必要があります。しか

し、手渡した眼鏡をかけた難民の方々が“見える喜び”を全身で表現してくれることで、そうした苦労が打ち消されます。その場に立ち会えると、視力が人生を左右することがあるのだと実感することができます。また、NGOや現地のスタッフ、通訳など協働作業をした多くの人々と、その喜びを共有できることもうれしいことです。

難民支援メンバーはどう決めていますか、また社内でのサポートはありますか

「視援隊」は、世界的な発想で幕末を生きた坂本龍馬の海援隊にちなんで名づけられました。これまでの参加者は延べ116人、実数で70人以上に上ります。毎回、私を含め4～6人の派遣メンバーは公募により決定します。中堅の店長クラスが中心ですが、最近は入社時点で参加したいと希望する人も出ており、幅広い年齢層になっています。ボランティアなので、社員は有給休暇を取得して参加します。参加者の渡航費や滞在費などは会社が負担します。なお、眼鏡の費用も会社が負担していますが、フレームはメーカーや問屋から多数の寄贈があり、レンズも安価で提供してもらうなど、眼鏡業界全体が難民支援の意義を理解し、協力いただいています。また、当社の派遣メンバー以外の社員も、仕事の合間に寄贈する眼鏡の製作や梱包作業などの後方支援作業に取り組んでいます。



アゼルバイジャンでの視力検査 (2006年)

難民支援により、経営への影響はありますか、また、今後の方針はどうですか

社員は支援活動を通して、言葉にしがたい貴重な経験をしたことを実感しています。視力検査により難民の方々に親身に接し、喜ぶ顔をじかにみることで、自分たちの専門的な技術やサービスがこれだけ喜んでもらえる重要なものということに改めて認識することができます。これは、サービス意識の向上という点で仕事の面でも大きなプラスです。当社は、きめ細かくお客様の使い方や要望を聞き、信頼を得ながら、最適な眼鏡を提供する方針をとっているため、“見える喜び”を自身の喜びとして実感できる現地での体験は大いに役立ちます。また、社員の国際的視野が広がることもプラスです。

これまで、難民支援を継続して実施できたのは、決して無理をせず、自分たちのできる範囲で行ってきたためだと思います。今年は初めてタンザニアの難民キャンプにも眼鏡を送付しました。来年の訪問先は今年と同様アゼルバイジャンを予定しています。今後も、眼鏡を必要としている人がいる限り、難民や国内避難民の方々の喜ぶ姿を楽しみに、無理せず長く貢献していきたいと考えています。

UNHCRの資料では、「(株)富士メガネはUNHCRにとって最も長い協力関係にある法人パートナー」と称えられている。視力改善の持つ重要な意義を自分たちの実際の行動で世界に再認識させたという点でも貢献大だ。会社を挙げ、国境を超えた支援活動を20数年間にわたって続けてきた同社の姿勢は「企業の社会的責任」という点で学ぶべき点が多い。“見える喜び”を多くの難民、国内避難民と共有したいという同社の活動に今後も期待したい。

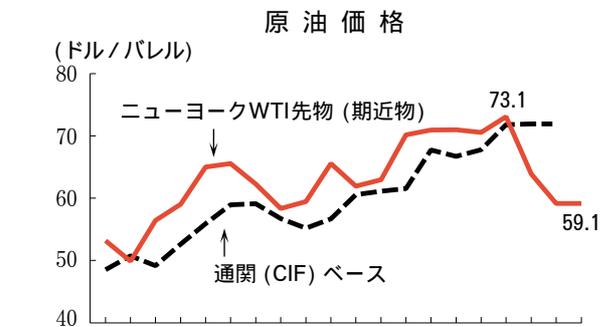
(松本 則栄)

原油価格高騰に対する企業の対策事例

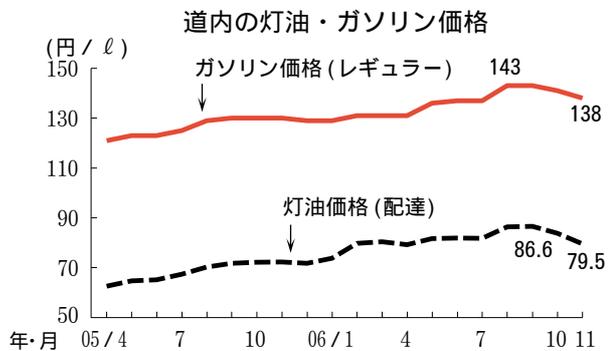
原油価格高騰の中、道内各企業でも燃費改善、代替燃料利用によるコスト抑制、技術開発、新商品販売など様々な取り組みや工夫がされている。主な取り組みを項目ごとにまとめると以下の通り。なお、足元の石油製品価格（グラフ参照）は徐々に低下しつつある。

燃費改善	<ul style="list-style-type: none"> ・低燃費走行を運転手に再徹底、燃費を改善（運輸）。 ・インターネットで燃費情報を知らせる情報サービスや経済速度以上になると運転手に警報で知らせる装置を利用（運輸）。 ・省エネ型漁船を建造、水産業者にリース（漁協）。
物流効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・製品輸送をトラック、船舶から鉄道に切り替え（物流、製造業など）。 ・灯油の小口注文に効率的対応ができる配送管理システムを開発（IT企業）。
代替燃料・リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ・植物油を精製して作るBDF（バイオディーゼル燃料～軽油の代替燃料）を使う企業、施設が増加。札幌圏では、飲食店やBDF製造業者、自治体が一体となり、BDFの原料となる廃食用油の回収を進める動きも出ている。 ・バイオエタノール（農作物などからつくるガソリン代替燃料）の実用化を目指す産学官の動きも活発化。 ・燃料費削減に加え、低公害車として環境にも配慮した天然ガストラックを導入（運輸）。 ・自家発電用ボイラーの燃料の一部として廃タイヤ（同量の石炭に比べコストは半分、発熱量は石炭並みに高くリサイクルの熱源として見直されている）を使用（紙パルプ）。 ・自動車解体時に出る廃油から燃料を作る装置を開発、実用化（リサイクル）。 ・洗濯物乾燥用ボイラーの燃料を木くずに転換する実験を開始。燃料経費を5分の1程度に削減する見込み（クリーニング業）。 ・重油を使用する自家発電から買電に切り替え（工場、商業施設等）。 ・水力発電所の設備を一括更新、能力を増強（電力）。 ・燃料を重油から天然ガスに切り替え（大型温浴施設）。 ・製造工程で使用する燃料を灯油から天然ガスに切り替え（鉄鋼）。
暖房器具	<ul style="list-style-type: none"> ・まきストーブを新たに販売、売上げ好調（ホームセンター）。間伐材を有効利用した木質ペレットも燃料として注目され、道内のペレット生産団体が増産。 ・住宅では、エネルギーを全て電力でまかなう“オール電化”や、天然ガスによるコージェネレーション（熱電併給）システム導入などが増加。バイオマスエネルギーを暖房燃料にしたマンションも登場。
ウォームビズ	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年よりも品揃えに力を入れる店舗が増加（百貨店など）。各店で重点商品を工夫する動き。
リスクヘッジ	<ul style="list-style-type: none"> ・燃料・原材料価格の変動リスクをヘッジする金融商品を導入する企業が増加（運輸等）。仕入額を一定期間固定でき、原油価格高騰による経営への打撃を軽減できることが利点。

（新聞報道等を参考に当研究所作成）



11月のWTI先物の数値は11月3日現在を使用。
（資料：財務省、ニューヨーク・マーカンタイル取引所）



11月の数値は11月6日現在を使用。
（資料：石油情報センター）

（橋村 佳織）

精密な研磨・加工技術に強み、高品質の切削部品製造を黒子として支える

～ (株)太田精器 ～

高度に機械化された大手メーカーの工場では、高品質製品の量産体制が確立されている。その多岐にわたる工程の中で、機械対応が困難な作業などその一部が下請け企業の技術力に支えられている例は少なくない。(株)太田精器(空知郡奈井江町)もこうした黒子企業の一社だ。今回は、金型の精密な研磨加工や光ファイバーケーブルの端末加工など、手作業による微細加工分野での技術力に強みを持ち、大手メーカーのものづくりを支える当社を紹介する。

環境変化を先取りし新たな下請け分野に進出

当社は、先代社長が1980(昭55)年に設立。電子部品製造の下請け業務(ビデオの画像修正部品の組立加工)を行う中で、徐々に手作業による精密な加工技術を高めてきた。その後、家電製品の急速なデジタル化等に伴う先行きへの危機感(扱い品の需要縮小)から、1994(平6)年、地元奈井江町に立地する国内大手超硬工具メーカー・北海道住電精密(株)(切削機械の切削性能を大きく左右する刃の部分「刃先チップ」を製造し国内外に供給)との取引をスタート。刃先チップは、被切削物の種類・硬さ・切削仕様に応じ、材質・形状等の面で様々なタイプがあり、種類は数千にも及ぶ。そして、概ねその数だけ「金型」が必要になる(金型に刃先チップの原料となる粉末を充填してプレス成型する)。この金型の最終仕上げ工程となるラッピング加工(鏡面研磨)を全面的に請け負っているのが当社だ。

1,000分の1ミリの精度で金型を磨きあげる

金型は機械で製作されるが、その表面には肉眼では識別できない程微細な凹凸がある。そのままの状態で使用すると、成型されたチップ表面にも凹凸がつくため、品質低下の原因になりやすい(刃部分の強度低下、被切削物に損傷を与えるなど)。このため、高品質のチップに成型するためには、金型表面の精密な研磨による鏡面仕上げが不可欠となる。極細の針がついたペン状の道具と研磨材を使い、作業精度は、平面度(いかに平らであるか、幾何学的平面からの狂いの大きさを表す)が0.001mm以下、面粗度(表面の凹凸度合いを表す)0.003mm以下(平面度・面粗度は、ものの形状を数値化するため理想的な形状からの偏差を表す。このため、単位はmmだが長さの概念とは異なる)、寸法精度が0.002mm以下。機械では対応困難な、極めて職人的要素が大きい作業だ。企業秘密により、仕上げ加工を行う本社工



刃先チップ用金型の研磨仕上げ作業



精度検査

場内への立ち入りは厳しく制限されており、関係者以外が作業の様子を直接見ることはできないが、太田社長の話では、顕微鏡を覗きながらの手作業が行われており、工場というよりはむしろ、何かの研究室といった雰囲気が漂っているという。このほか、刃先チップを装着するホルダー等切削機械のパーツ修理や、北海道住電精密(株)工場内での一部工程（チップ上下面の研削、チップ強度を上げるための切刃加工）請け負いも行っており、刃先チップ関連業務は売上げの約4割を占める当社の柱になっている。

髪の毛ほどの極細芯（光ファイバー）を傷つけずに加工

当社のもう一つの柱が、通信ケーブル（光ファイバーコード）の端末加工。一般的なケーブルの断面直径は3～30mm。3～4層の被膜で保護されているその中心芯（光ファイバー部分）は直径0.07mmと極細だ。実際に使用する際には、端末にコネクタなどの接続機器を取り付ける必要があるが、当社が請け負っているのはその前処理作業となる加工組立。各層の被膜部分を順々に剥き、仕様に応じて指定された長さで中心芯を露出させ、最後に数種類の留め具等を取り付ける。芯部分を傷つけることは許されず、高い加工技術が要求される。



光ファイバーコードの端末加工

発注元の北海道電機(株)（奈井江町）からは、同一仕様の大量受注というよりは、少ロット、多仕様の受注が多く、受注当日中の納品というケースも少なくない。光ファイバーケーブル需要の増加に加え、当社の精密な作業、臨機応変の納期対応力が発注元からの大きな信頼につながっており、当初、200芯程度だった月間受注量が、現在では3万芯にまで増加している。

大手の下請け取引を通して培われた徹底した「品質・納期・コスト」意識

大手メーカーの下請け業務開始から12年。「品質基準、納期対応、請負単価水準など要求基準はどれも厳しく、当初は苦勞の連続だった」と言う太田社長だが、「そうした高い基準を乗り越えてきたからこそ今の当社がある。これまで培われた“技術力”と“3つの高い管理意識”を生かしてさらに業務の幅を広げたい」と先を見据える。今年に入り、新たに取り組んでいるのが、チタン製「ターゲット」の加工製造だ。半導体製造などにおいて、薄膜を蒸着させるために必要な材料で、刃先チップの金型同様、表面の鏡面仕上げ精度が製品の質を左右する。道外企業からの受注だが、最終ユーザーが大手電気機器メーカーという点からみても、当社の微細加工技術が高い評価を得ているのは確かだろう。

「出来ない理由を並べるのではなく、まずやってみる・チャレンジ精神を忘れない」。当社の信条は、北海道の中小製造業に対するエールにも聞こえる。高い微細加工技術力を道内から発信し続ける当社のさらなる飛躍を期待したい。

【会社概要】

本 社	空知郡奈井江町字茶志内89番地 6
	☎0125 - 65 - 2759 Fax0125 - 65 - 2765
設 立	1980(昭55)年12月
資本金	1,000万円
代表者	太田 裕治
従業員	58人(パート含む)
事業内容	非鉄金属・機械部品等製品加工 (超硬工具類修理・研磨加工、金型仕上げ加工、 通信ケーブル組立加工、機械精密部品加工など)
URL	http://www.ohtaseiki.co.jp

(黒瀧 隆司)

「道内ユニーク企業」の近況

本誌「ユニーク企業紹介」コーナーでの紹介企業は、シリーズ開始（96年11月号）以来、今回号で124社を数える。これらの企業に共通する点は、顧客のニーズを的確に掘り起こし、日々自らが提供する財、サービスの改善に向けた弛まぬ努力を続けていることである。各企業の特徴をキーワード化してみると、「開発力・技術力」に加え、「人材育成」「健康・環境志向」「独創性」「提案型営業」などにより他社との差別化を図っていることがわかる。今回は2005年度の掲載企業を中心に、各社から寄せられた近況を一部ではあるが紹介する。

企業名(掲載号) 代表者、電話番号 本社所在地	キーワード(強み、特色、志向等)
	掲載時の概要
	近況
(株) レアックス (1997年4月号) 亀和田俊一 ☎011-780-2222 札幌市	「開発力」「独創性」「環境志向」 独自の「画像による地質解析システム(BIPシステム)」を開発。地質、土木、資源等各ジャンルの技術者を中心とする研究・開発部隊を持ち、開発した機器の性能の高さ、調査における緻密さの両方で全国的に認められている。 06年、建材に含有するアスベストの有無を現場内で判定することができる偏光判定装置「PVS」を開発。3月の販売とともに、同装置を使った分析の受託事業を開始。重量は合計20kgで建設現場への持込を想定した構造となっており、これまで1-2か月かかっていたアスベスト有無の判定時間の短縮と分析コスト削減を実現した。
(株) ニッコー (2000年8・9月号) 佐藤 厚 ☎0154-52-7101 釧路市	「開発力」「独創性」「提案型営業」 ホタテ貝自動生剥機、サケ加工システム等独自製品を開発。食品加工業者の問題解決のためのニーズに応じて、機械の企画から、設計・製造・アフターサービスまでを一貫して行う。 06年、本業の食品加工機械開発に加えて「チルドシステム事業」を開始。魚介類の鮮度を保持するための氷を海水から製造する「海氷(かいひょう)」、強い静電気(最高7,000V程度)を用いることでマイナス温度帯でも食品を凍らせずに長期保存することを可能にした「氷感(ひょうかん)」の取り扱いを始めている。
(株) 田中工業 (2000年11月号) 田中 惣平 ☎0134-25-7300 小樽市	「技術力」「環境志向」「道内トップシェア(マンホール蓋)」 道内地方自治体の約6割にマンホールの蓋を納入。安全性に加え、各自治体のイメージを表現したデザイン力にも定評がある。環境に優しい鋳物製品の効果的な利用を積極的に提唱し、社員教育にも力を入れている。 近年は、産業機械部品や鋳鉄製の鉄筋継ぎ手などで本州向けの出荷も増加。06年度は、鋳物の技術力を更に高めるために、複雑な形状に対応できる造型機など、最新鋭の鋳造設備を導入。また、現場の「カイゼン」を図るため、月に一度、外部講師を招聘して勉強会を実施している。
五稜郭タワー(株) (2002年6月号) 中野 豊 ☎0138-51-4785 函館市	「地域振興」「市場開拓(業界の先駆け)」「人材育成」 道南の人気観光施設「五稜郭タワー」を運営。国内観光専用タワーの先駆け。住民参加型の行事を数多く開催、地元との交流に積極的に取り組んでいる。また、地域の歴史・文化の研究と魅力の発信にも力を入れている。 06年4月1日にオープンした新タワー(高さ107m)の搭乗者数は、4~10月累計で87.2万人となり、前年同期の1.9倍(40.8万人増)となった。現在、旧タワー跡地に休憩スペースとなるアトリウムを建設中。11月下旬に完成し、12月1日から新タワーとあわせ全施設での営業開始を予定している。

企業名(掲載号) 代表者、電話番号 本社所在地	キーワード(強み、特色、志向等)
	掲載時の概要
	近況
光洋器材(株) (2005年4月号) 伊藤 勝夫 ☎011-782-3041 札幌市	「開発力」「独創性」「国内トップシェア志向」 使いやすさと強度を兼ね備える高品質・高機能なオリジナル締結部品(ボルト、ナットなど)を次々に開発し、国内外で高い評価を得ている。各種受賞製品も多く、国内外での特許は出願中のものを合わせると60に及ぶ。 片側からの作業しかできない中空構造の鉄骨などに、強力なボルトの締結・取付を可能にした「フリップボルト」は、欧州向けの輸出が堅調、来年6月までの受注を確保。ホームページへのアクセス件数(重複を除く)が平日平均600件を超えるなど、他の商品についても反響が大きく、着実に業績を伸ばしている。
(株)マリアール (2005年6月号) 平 哲仁 ☎011-223-1414 札幌市	「技術力」「人材育成」「市場開拓(業界の先駆け)」 ネイルサロンの道内先駆け。自らが運営するネイリスト養成スクールで「ネイル技術」「接客技術」の両面から人材を育成、常に質の高いサービスを提供している。アフターサービスも充実しており顧客から根強い支持を得ている。 05年8月、千歳駅前の商業施設ペウレ千歳内に店舗を開設。05年11月には、全国初の空港ターミナル内ネイルサロンとなる新千歳空港店をオープンさせ、現在は9店舗での運営を行っている。今後は、新千歳空港店から国内外に向けマリアールブランドを発信し、全国の空港、東京、海外への出店を目指す。
(有)亜麻公社 (2005年10月号) 内藤 大輔 ☎011-731-8588 札幌市	「開発力」「健康志向」「地域振興」 麻布の需要減少から栽培されなくなったものの、「捨てるところがない」ほど、幅広く活用できる亜麻に注目。現代食生活で不足しがちなn-3系の良質脂肪酸とビタミンEを豊富に含む亜麻仁油サプリメントを開発し起業。亜麻仁油を利用したドレッシング、養鶏飼料、木工仕上剤での製品化にも取り組んでいる。 06年10月、札幌市「食産業振興プロジェクト」のモデル事業に指定された「亜麻仁油ドレッシング」を開発。現在、同社ホームページ、東急百貨店、札幌市役所などで試験販売を行っている。練りごま味、和風たまねぎ味の2種で価格は1,995円。
丸共バイオフーズ(株) (2005年11月号) 宮本 宣之 ☎0162-23-4055 稚内市	「開発力」「健康志向」「安心・安全」 これまで廃棄されていた道産エイ(カスベ)のヒレ(食用部位)以外の部分から、世界で初めてコンドロイチン硫酸、コラーゲンといった「身体を健康に保ち、老化を抑制する」機能性物質を抽出。添加物を一切使用しない健康食品として製品化。 道外への販売体制の確立により、全て道内向けであった販路が、東京を初め本州にも広がり、売り上げも順調に伸びている。現在、他社・他機関との共同研究・共同開発に積極的に取り組んでおり、年内にも水産物を用いた新製品を発売する予定である。
(株)丸升増田本店 (2005年12月号) 内山謙士郎 ☎011-721-0311 札幌市	「環境志向」「安心・安全」「提案型営業」 古紙卸売業者として、回収物からの機密情報漏洩を防ぐ「情報セキュリティ体制」を確立。また、機密文書を原料に安心かつ高品質な家畜用敷料を製造するなど、機密性の高い廃棄文書の回収からリサイクルまで、一貫処理を実現した。 05年8月の情報セキュリティマネジメントシステム認証取得に続き、06年9月には、環境マネジメントシステム・ISO14001の認証取得。電子媒体を廃棄する際のデータ消去ニーズの高まりから、強磁気により磁気データそのものを消去する設備を導入、文書の場合と同様に、出張による現場処理も行っている。
(株)ローレル (2006年3月号) 今井 浩恵 ☎0125-52-3756 砂川市	「開発力」「健康志向」「人材育成」 入浴料・化粧品・ハーブ関連食品などを、商品企画から研究・開発、製造、販売まで一貫して手がける。斬新なアイデアと洗練された感性で、多くのヒット商品を世の中に送り出している。 秋冬向けに開発した(株)ローソンとの共同企画商品(入浴料)が好評。牛乳、ワインなどを用いた「アドリンクパス」は飲料メーカーと、各地の名産果物を用いた「じゃらんにつぼんのお風呂」は全国じゃらんと提携商品。今年6月には、商品企画から製品化までを体験できる「カイヤものづくり学校」を札幌で開校している。

道内の主な産業日誌

〔7 月〕

1日 日中韓観光サミット開催
1 - 3日、日中韓の三カ国の観光交流を議論する初の国際会議「日中韓観光大臣会合（観光サミット）」が釧路・旭川・札幌で開催された（日本からは国土交通大臣が出席）。観光振興に取り組む枠組みが北海道宣言として示された。

旭山動物園 6月の入園者日本一

旭山動物園の6月の入園者数が、前年比約7万人増の約27万人となり、6月としては初めて日本一になった。団体客が前年の2倍の約13万人と大幅増。

東洋水産 第3冷蔵庫着工

東洋水産は石狩湾新港地区で「石狩第三冷蔵庫」（仮称）の建設に着手した。延べ床面積1万1千㎡、総投資額は17億円で来年3月1日に稼働予定。

東札幌に複合施設進出

東札幌の市有地に進出する企業は大和ハウス工業に決まった。旧国鉄東札幌駅跡地の一部で、市は16億円で土地を売却。同社は2008年4月にも、総床面積5万5千㎡の複合商業施設をオープンさせる。

11日 コールセンター相次いで開設
PHS最大手のウィルコムとINAXがコールセンターを道内に開設する。INAXは国内5カ所目（札幌）で、最大規模（100人規模・一部地元採用）。ウィルコムは道内2カ所目（岩見沢・100人地元採用、国内では7カ所目）。

ニセコ観光効果290億円

北海道経済産業局は豪州からのスキー客などでにぎわうニセコ周辺地域の観光経済効果をまとめた。2005年の1年間で290億円、直接的な消費額は206億円で、内訳は宿泊業73億円、小売業60億円、飲食業40億円など。

14日 札幌西武改装 最大20億円投資
札幌西武が15億円から20億円を投じ、2007年3月にリニューアルオープンする。札幌の百貨店では三越札幌店、バルコ札幌店、丸井今井札幌本店も改装予定。

ラウンドワン 函館、旭川にも進出

ボウリング場運営大手のラウンドワン（大阪府堺市）は2007年に道内に進出する。年商5百億円超を誇る国内屈指の大手。道内最大手スガイ・エンタテインメントは、ラウンドワンに対抗し、約30年ぶりに大阪に出店する。

23日 05年度道内観光客数 外国人20%増
道のまとめた05年度の総観光客数は、4,813万人（前年比0.5%）と4年連続の減少。このうち、外国人観光客は51万人（同20%増）に達した。

25日 十勝 280ha栽培中止
春先から低温多雨だった十勝支庁で、栽培中止の畑が約280haに上った。大半は豆類。

〔8 月〕

1日 「DMV」来年4月 営業運転開始
国土交通省とJR北海道は、線路と道路の両方を走行できる「デュアル・モード・ビークル（DMV）」を来年4月から釧網線（浜小清水 - 藻琴間）で試験的に営業運行する。

旭山動物園 3年連続全国一

旭山動物園の7月の入園者数が37万人（前年比38%増）となり同月では3年連続全国一となった。5日には新施設「チンパンジーの森」オープン。

道内設備投資 2年連続増

日本政策投資銀行北海道支店は、06年度の道内の設備投資計画調査結果を発表。全産業で4,407億円（前年比3.4%増）と2年連続増加した。

札幌駅南口 路線価道内一

国税庁は06年分の路線価を発表。道内の標準宅地評価基準額は前年比2.4%、1千円減の4万1千円と14年連続で下落。札幌では9年ぶりに最高路線価が上昇。

ガソリン 140円台主流に

石油元売り各社が1日から石油製品の卸価格を大幅値上げした。道内各都市のガソリンスタンドでも値上げが相次ぎ、レギュラー1ℓ当たり140円台を突破した。

8日 そんぽ24 札幌にコールセンター開設
日本興亜保険グループのそんぽ24（東京）は、札幌市にコールセンターを核とする新たな事業所を2007年1月に開設すると発表。正社員150人採用する。

倶知安に新リゾート計画

日本と豪州の投資会社など3社がニセコ地区に大型リゾート施設の建設を計画。総投資額は約60億円、08年夏の完成を目指す。

11日 大通ピアガーデン 大盛況で幕
「大通納涼ガーデン」（7/21 - 8/10）の来場者数は152万3千人、ビール消費量が57万4,842ℓと、ともに過去最高となった。期間中真夏日が続ぎ、雨天もゼロと天候に恵まれた。

20日 5年ぶりに道産米首位
1年間（05年7月 - 06年6月）の都道府県産別コメの販売実績で道産米が新潟産を抜いて5年ぶりに首位を奪回。販売量は約66万t（前年比23.8%増）。

24日 バイオ燃料 道内に大型実証プラント
農水省は「バイオエタノール」を製造できる大型プラントを、約100億円かけ全国3カ所で整備する方針を固めた。認定されれば施設の設置経費などで2分の1の助成が受けられる。これを受けてJA道中央会などで結成されるグループは大型実証プラントを2007年度内に道内設置することを決めた。

〔 9 月 〕

- 5日 ベネッセ子会社 札幌にコールセンター
ベネッセの子会社テレマーケティングジャパンは、札幌にコールセンターを開設、12月に業務開始予定。400 - 500人を採用見込み。
- 12日 カルビー 新工場棟で操業開始
帯広工場の増設工事が11日完了。鉄骨二階建て延べ約2,500㎡、投資額は15億円。
- HAL財団 恵庭に野菜出荷拠点
HAL財団は恵庭に本州向け野菜の出荷拠点となる施設建設を発表。来春着工、7月操業予定。総投資額は15 - 20億円。従業員は常勤職員5 - 10人で非常勤を含めると20 - 30人となる見通し。
- 14日 高卒求人倍率 道内でもやや改善
全国平均で1.14倍、道内は0.29倍（前年比0.05ポイント増）。東京は4.41倍に達するなど地域間格差は広がった。
- 16日 札幌市税決算 8年ぶり増収
2005年度の札幌市の市税決算は、2,611億円（前年比28億7千万円増）。主要因は人口増による納税者の増加やマンション新築による固定資産税の増加によるもの。
- 05年度 ポスフルが首位
2005年度の道内スーパー売上高ランキングによるとポスフルが1,201億7,800万円で9年連続首位を維持。
- 19日 基準地価 札幌15年ぶり上昇
道内の全用途平均は15年連続下落（前年比 2.5%）。札幌では住宅地・商業地とも上昇。倶知安町は住宅地で上昇率全国一（33.3%）。
- NEDO 稚内に最大実験施設
新エネルギー・産業技術総合開発機構は、大規模太陽光発電の実験施設を、総事業費100億円で年内にも着工予定。
- 24日 道産衛星 打ち上げ成功
23日、道産としては初の超小型人工衛星「HIT-SAT」が予定の軌道に乗り、打ち上げは成功した。今後、農漁業への利用などを目的とした実用衛星開発に取り組む。
- 28日 日生ビル オフィスビル棟完成
札幌市北3西4に建設していたビルが完成。北関東以北では最大。地上23階地下2階で、高さは約100m。延べ床面積は9万2千㎡。3.3㎡当たりの募集賃料は札幌市内平均より9千円ほど高い1万9千円だが、すでに入居率は8割に達している。
- 29日 道内コメ作況 全国最高の105
北海道のコメ作況指数は、全国最高の「105」で2年連続豊作。全国平均の作況指数は「97」で3年ぶりに不作の見通し。

〔 10 月 〕

- 1日 旭山動物園 4ヵ月連続で全国一
9月の月間入園者数が44万774人（前年比51%増）を記録し、初の4ヵ月連続全国一となった。
- 2日 05年度内製造品出荷額が増加
2005年度の道内の製造品出荷額が5兆4,581億円（前年比3.7%増）となり、5年ぶりに増加。市町村別では室蘭市が2年連続の1位。
- 5日 旧イトーヨーカドー帯広店、商業施設に
8年間空きビル状態だった旧イトーヨーカドー帯広店を不動産管理のゼウスデベロップメントが買収。来春をめどに商業施設として開業予定。
- 6日 塩野義 北大に研究施設
塩野義製薬は北大構内に共同研究施設を建設。07年春着工し同年内に完成、08年春から運用開始予定。施設は4階建て延べ床面積約2千7百㎡。
- 18日 販売農家 5万戸割れ
農水省は06年の道内農業経営体（2月1日現在）が5万2千（前年比 3千）と発表。販売農家数は4万9千戸と初めて5万戸を割り込んだ。販売農家のうち耕地面積が10ha以上の農家戸数は、53.1%と3年連続50%を超えた。
- 低気圧被害 漁業は83億圓に
道は7 - 9日にかけての低気圧による漁業被害が16日現在で83億圓に達したことを報告。算定を終えたのは全体の8割程度のため、最終的に100億圓を突破するのは必至。
- 19日 石狩湾新港 設備投資が活発化
石狩湾新港地域の造成・分譲を手掛ける石狩開発によると、本年度上半期（4 - 9月）の設備投資額が約150億圓と過去5年間で最高。新增設に着手した企業は24社。
- 21日 道内農業産出額 4年ぶりマイナス
05年の道内農業産出額は、1兆663億圓（前年比2.5%）。小豆やビートの生産量の落ち込みが響いて4年ぶりのマイナス。コメは同7.7%増。
- 24日 石狩湾新港に惣菜工場
惣菜の製造・卸などの道内大手、バイオニアジャパングループ（小樽）は、石狩湾新港地域に環境や衛生管理面に配慮した工場を建設。来年1月の稼働を目指す。総投資額は5億8千万円。地元で10人以上の新規雇用を予定。
- 25日 さんご 三五が苦小牧進出
愛知県の自動車部品メーカー（株）三五は、苦小牧に生産工場を建設する。床面積約6千㎡、総投資額は約18億圓。11月着工、来年11月稼働予定。トヨタ自動車北海道に納入。従業員約20人を現地採用する。

(新聞報道等を参考に当研究所作成)

どうぎんだより

道銀 **NVC**

“DOGIN NIKKEI VENTURE” MANAGERS CLUB
道銀・日経ベンチャー経営者クラブ

21世紀の北海道を担う経営者の皆様へ。
ビジネスに直結する情報サービスと
価値あるネットワークを提供します。

◆ 主な情報提供サービス

◎ 毎月お送りする経営者 必携の3点セット

1. 情報誌（日経BP社が発行する複数の雑誌の中から1冊をお届け）
2. トップの情報CD（経営セミナー収録分と専門家による経営チェックポイント）
3. NVCマンスリー（元気のある中小企業レポート、会員特典をまとめた小冊子）

◎ ビジネス・レポート

経営・市場動向、人事・賃金、事業承継から冠婚葬祭・健康管理まで、企業経営のカギとなる約3,000タイトルの旬のレポートを用意。内容は随時更新され、インターネット上での閲覧も可能。

◎ 各種イベント、セミナーに優待価格で出展、参加ができます!!

北海道ビジネス交流会、北海道の『食』特別商談会への出展料や、年間約15本開催するセミナー・研修の受講料に優待価格が適用され、大変お得です。

ご入会、年会費などに関するお問い合わせは……

道銀・日経ベンチャー経営者クラブ事務局 までご連絡ください。
（北海道銀行法人営業部内）TEL 011-233-1040

調査ニュース

編集・発行

北海道銀行

道銀地域企業経営研究所 経済調査室

〒060-8676 札幌市中央区大通西4丁目

☎（直通） 011-233-1032 内容照会先 黒瀧

北海道銀行ホームページ <http://www.hokkaidobank.co.jp/>

印刷 有限会社 北光社